

令和 3(2021)年度の堅果類(ドングリ)の豊凶とクマの出没について

R3(2021)年 9月 自然環境課

1 堅果類豊凶調査の概要

8月から9月にかけて、林業センターが調査を実施
調査地は県内4地域(高原、県北、県南、奥日光)

2 今年度の結果(カッコ内は前年度の結果)

ミズナラ：高原地域が並作(凶作)、県北地域が不作(凶作)、県南地域が凶作(凶作)、奥日光が凶作(不作)

コナラ：高原地域が不作(凶作)、県北地域が凶作(凶作)、県南地域が並作(不作)

3 クマの出没について

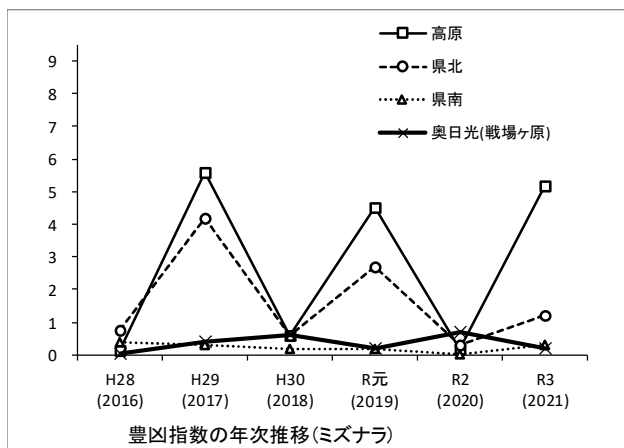
堅果類の豊凶とクマの捕獲数の関係からみると、ミズナラ及びコナラが「凶作又は不作」の年は、クマの捕獲が晩秋(10月、11月)まで続く傾向がある。堅果類の結実が全県的に凶作又は不作であった令和2(2020)年度は、8月に捕獲のピークを迎えた後、11月に再度捕獲のピークを迎え、捕獲数自体も多かった。

令和3(2021)年度は、高原地域や県北地域でミズナラの結実が改善し、高原地域や県南地域でコナラの結実が改善した。

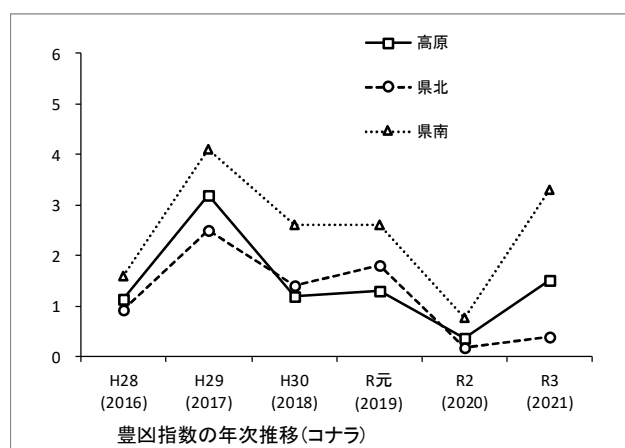
令和3(2021)年度は、クマの出没数は令和2(2020)年度の7割程度、クマの捕獲数は令和2(2020)年度の2割程度で推移している。また、令和2(2020)年度は3件の人身事故が発生したが、令和3(2021)年度は発生していない。

令和3(2021)年度の堅果類の結実が比較的良好であることから、秋期以降においても出没数、捕獲数ともに比較的小さい傾向が続くと考えられるが、収穫予定の無い柿や栗などの誘引物の除去や人家周辺のヤブの刈払などクマを里地に近づけない対策が引き続き必要である。

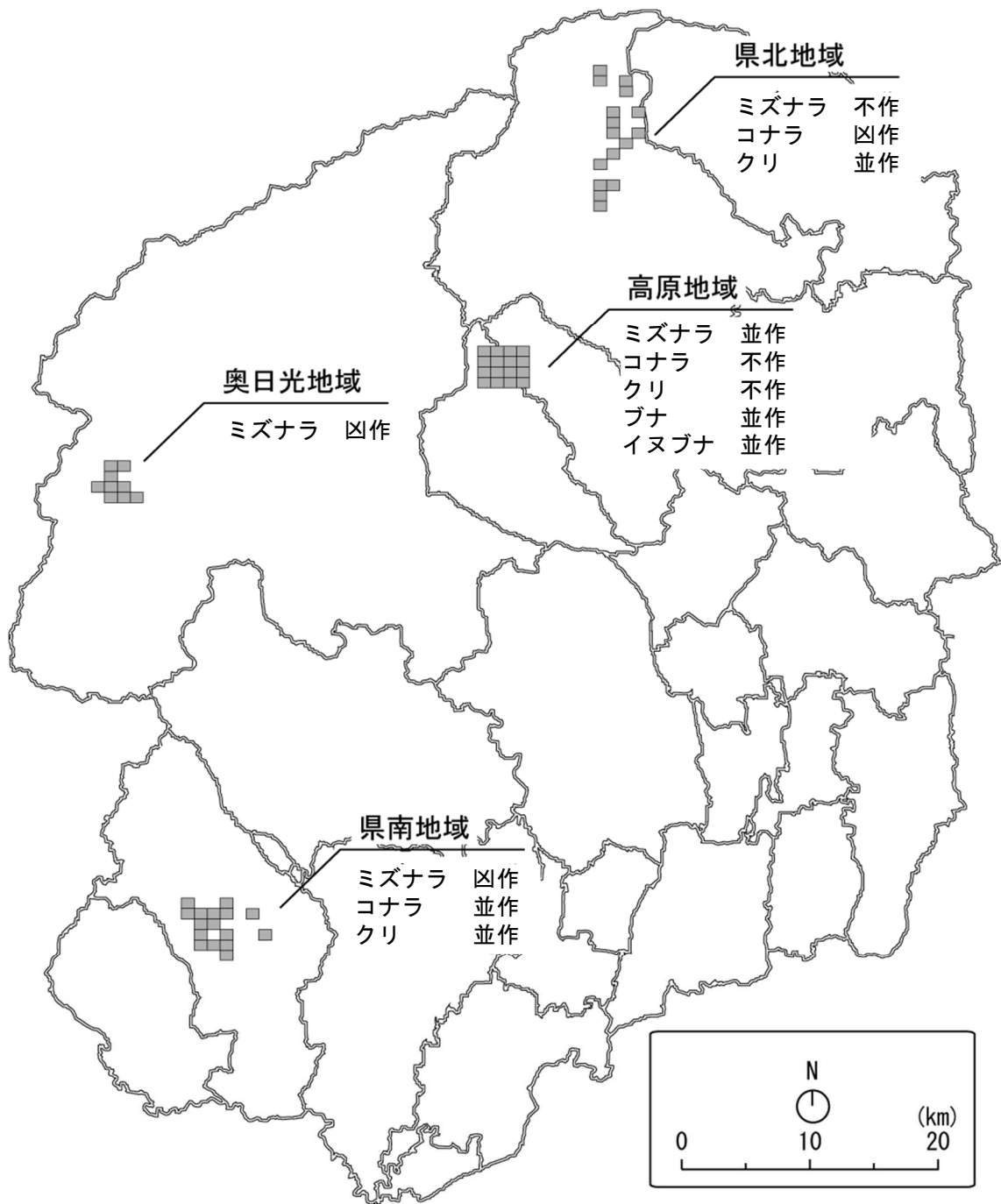
また、もみじ狩りや登山、ハイキングなどで山林等に入る場合には、鈴やラジオ等の音により人の存在をクマに知らせ不慮の遭遇を避ける対策が引き続き必要である。



※豊凶指数：枝先50cmの実の数



OR3 (2021) 年度堅果類豊凶の状況



○堅果類豊凶の年次推移

ミズナラ

	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
高原	4.9	1.5	5.1	0.5	6.5	0.1	5.6	0.6	4.5	0.2	5.2
県北	2.1	0.9	1.9	0.6	3.6	0.8	4.2	0.6	2.7	0.3	1.2
県南	1.0	0.3	2.3	0.2	0.1	0.4	0.3	0.2	0.2	0.0	0.3
奥日光(戦場ヶ原)					0.3	0.0	0.4	0.6	0.2	0.7	0.2

コナラ

	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
高原	1.50	0.90	2.0	0.7	3.1	1.2	3.2	1.2	1.3	0.4	1.5
県北	0.80	1.25	1.3	0.7	2.1	0.9	2.5	1.4	1.8	0.2	0.4
県南	1.70	1.82	3.0	2.4	2.6	1.6	4.1	2.6	2.6	0.8	3.3

クリ

	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
高原	1.50	2.08	1.5	0.5	1.0	1.1	0.7	1.3	0.4	1.5	0.5
県北	1.30	1.38	1.6	1.5	1.0	2.0	1.3	2.7	0.9	1.3	1.8
県南	1.60	1.72	2.2	1.2	2.4	2.0	2.2	1.1	0.9	1.2	1.4

○堅果類豊凶の基準

ミズナラ(コナラ)		クリ		ブナ・イヌブナ	
結実程度	枝先50cmの実の数	結実程度	枝先50cmの実の数	結実程度	1㎡あたりの堅果数
豊作	6個以上	豊作	4個以上	豊作	100個以上
並作	2～6個未満	並作	1～4個未満	並作	10個以上～100個未満
不作	0.6～2個未満	不作	1個未満	凶作	10個
凶作	0.6個未満				